

古くて設計図面がない木製家具が修理可能に

生活技術研究所 試験研究部

日時 令和7年11月26日(水) 14:00～14:40

場所 県庁3階 会議室301

(発表の内容)

県生活技術研究所(高山市)では、飛騨地域を中心に木製家具製造業の技術支援を行っています。

近年、木製家具の分野でも3D CADなどのデジタル技術が広がっています。図面の無い修理品の仕上げや、試作では、職人の手作業や手加工といった従来の技術が欠かせません。こうした背景から、デジタルとアナログをどう組み合わせるかが大きな課題となっています。

そこで、当研究所ではアーム式3次元スキャナーを導入し、アナログ技術を効率的にデジタル化する手法の検討や開発を進め、利活用研究会の開催など木製家具製造業のDX(デジタルトランスフォーメーション)を支援しています。

今回はアーム式3次元スキャナーの活用と、木製家具製造業への支援の取組をご紹介します。



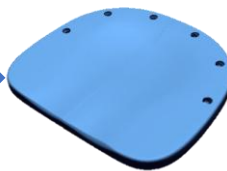
アーム式3次元スキャナー

【支援事例1】図面の無い修理品を3Dデータ化したい(飛騨産業)



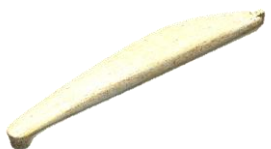
図面のない古い製品が修理で持ち込まれている。座面を手加工で修復しているが手間がかかる。

解決



CADデータ化を行い、機械加工が可能に。
今後は効率的に修復可能。

【支援事例2】手加工の形状を3Dデータ化したい(柏木工)



製品のひじ掛け部分をデザイナーが手加工で試作した。
この形状を正確に製品化したい。

解決



CADデータ化を行い、デザイナーが望む形状で製品化。

【支援事例3】設計通りに製造できているか確認したい(飛騨産業)



金属部品と組み合わせるため、木部に精度の高い加工が必要。

解決



CADデータとの検査より加工精度を確認できたことから、製造工程を見直すことなく製品化。